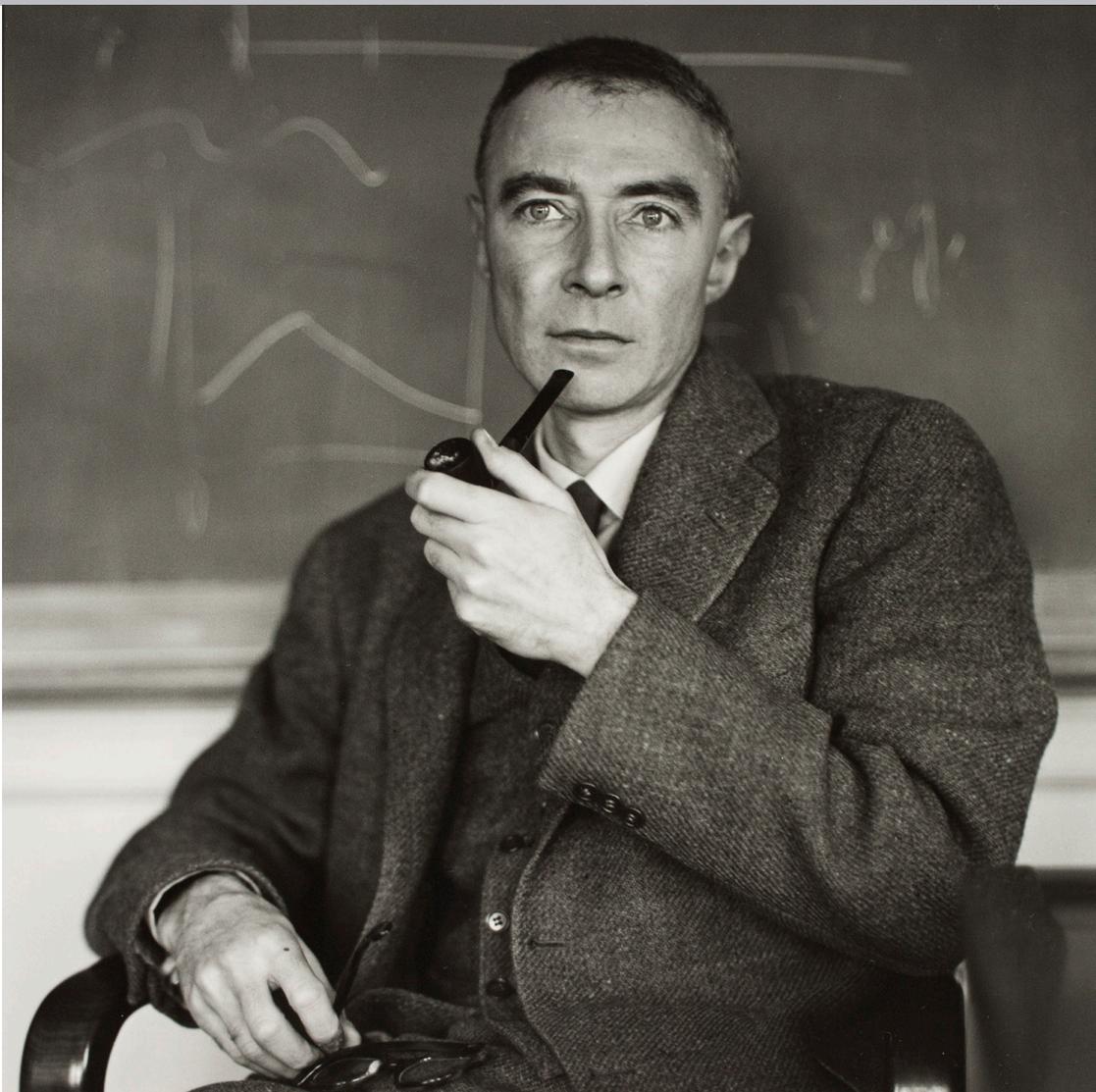


©Archiv Landshoff/Munchner Stadtmuseum, Sammlung Fotografie/bpk/amanaimages



日時 2025年2月27日(木) 15:30—17:00 [開場15:00]
会場 文化学園大学 A201講堂 [A館20階]
参加費 無料
主催 文化学園大学



【講師】
中沢志保 氏
NAKAZAWA Shiho
文化学園大学
国際文化学部 教授

津田塾大学大学院国際関係学研究科 博士(国際関係学)。
同大学国際関係研究所研究員を経て、1998年より本学専任
教員。政治学、現代国際政治論等を担当。国際関係学の視
点から、アメリカの政治・外交を研究。具体的には、第二次大
戦期及び戦後初期におけるアメリカの原子科学者の政治的な
役割、20世紀前半期のアメリカ外交に多大な影響を与えたヘ
ンリー・スティムソンの生涯と政治理念などを研究している。



科学と政治の
接点を生きた
科学者

オツペンハイマー

二〇二四年度 文化学園大学特別公開講座 J. Robert Oppenheimer

2025.2.27A201

特別公開講座開催にあたり

文化学園大学では、研究上の成果とリソースを広く一般の方々にご紹介する機会の一つとして、長年にわたり公開講座を開催しております。

本年8月には原爆投下から80年の節目を迎えます。他方、2024年のノーベル平和賞は被爆者の立場から核兵器廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会が受賞しましたが、これには、彼らの運動によって築かれた「核のタブー」への圧力に対する警鐘の意味もあります。こうした中、本年度の公開講座には『オッペンハイマー 原爆の父はなぜ水爆開発に反対したか』を上梓され、長年アメリカの原子科学者と政治・外交との関係について研究しておられる本学国際文化学部 中沢志保教授を講師にお迎えいたします。

ぜひご関心をお寄せいただき、ご来場くださいますようお願い申し上げます。

文化学園大学 公開講座実行委員会

【講演要旨】

クリストファー・ノーラン監督の映画『オッペンハイマー』が2023年(日本では2024年)に公開されて、今「原爆の父」と称されたJ・ロバート・オッペンハイマーの生涯に再び関心が寄せられています。原爆開発の中樞を担いながら、投下後にはその責任の大きさに押しつぶされそうになり、冷戦が激化する中でマッカーシズムの標的となった科学者として描かれることが多いですが、彼にはもう一つの「顔」があります。核の国際管理の提唱者としての「顔」です。「原爆の父」が水爆開発には反対した背景とあわせて、科学と政治の接点を生きたオッペンハイマーの生涯について考えてみたいと思います。

【講師】

中沢 志保(なかざわ しほ) 文化学園大学国際文化学部 教授

【講師略歴】

津田塾大学大学院国際関係学研究所 博士(国際関係学)。

同大学国際関係研究所研究員を経て、1998年より本学専任教員。政治学、現代国際政治論等を担当。国際関係学の視点から、アメリカの政治・外交を研究。具体的には、第二次大戦期及び戦後初期におけるアメリカの原子科学者の政治的な役割、20世紀前半期のアメリカ外交に多大な影響を与えたヘンリー・スティムソンの生涯と政治理念などを研究している。

著書に『オッペンハイマー』中央公論新社(1995)。『ヘンリー・スティムソンと「アメリカの世紀」』国書刊行会(2014)などがある。

【お問い合わせ】

本講座に関するお問い合わせにつきましては、大学Webサイトの下記URLをご参照ください。
<https://bwu.bunka.ac.jp/info/2024/11/23691>

